地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察

—児童虐待防止活動の実践より（第２報）—

上原正希・飯浜浩幸・小早川俊哉・西崎　毅
藤根　収・吉江幸子・杉本大輔・櫻井美帆子
大島康雄・吉澤英里・湯浅頼佳・西野克俊
畠山明子

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

第２号

2021 年

The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Social Welfare
No.2, 71－75, 2021

地域における予防・発見・発信機能のシステム構築への一考察

―児童虐待防止活動の実践より（第２報）―

上原正希・飯浜浩幸・小早川俊哉・西崎　毅
藤根　収・吉江幸子・杉本大輔・櫻井美帆子
大島康雄・吉澤英里・湯浅頼佳・西野克俊
畠山明子

要約

児童虐待防止活動の一つである「学生によるオレンジリボン活動」を社会福祉学部２年生に教員13名が携わり実施した。

児童虐待防止のための講義を行い，また社会に働きかけるために掲示物を作成し，社会にソーシャルアクションを実施した。

授業の開始前にアンケートをとり，また全ての取り組み後にもアンケートを実施したところ，「社会へソーシャルアクション」をすることが児童虐待防止を推進するためには効果があるという認識に変化した。

この度の活動を通して，ソーシャルワーカーに必要な技術の向上と認識変化が高まったことが実証された。

この論文は過去にも報告してきたが，児童虐待防止の広報・啓発活動である「学生によるオレンジリボン運動」に取り組んだ星槎道都大学社会福祉学部の保育士・社会福祉士・精神保健福祉士・教員を目指す２年生40名の学生と教員13名の活動と，その教育効果を記したものである。

Ⅰ．学生によるオレンジリボン運動について

「オレンジリボン運動」は，子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで，子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動であり，オレンジリボン運動を通して子どもの虐待の現状を伝え，多くの方に子ども虐待の問題に関心を持ち，市民のネットワークにより，虐待のない社会を築くことを目指している。

また「学生によるオレンジリボン運動」の，その目的は，近い将来親になりうる若者などに向けた児童虐待予防のための広報・啓発が主たる目標となっており，学園祭等を利用して学生が主体的に実施するもので，その活動内容は各校に委ねられている。当初，厚生労働省で主唱していたものであるが，平成27年度から，オレンジリボン運動の総合窓口を担う特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワークが引き継ぎ実施している。

Ⅱ．本学におけるオレンジリボン運動について

本学は平成26年度より毎年開催している。先に記載した通り，オレンジリボン運動の活動内容は各校に委ねられているが，本学の活動内容については教員間で話し合い決定している。

令和２年度の本学活動については，社会福祉学部２年生を対象に，令和２年８月24日～26日の夏季集中期間に，児童虐待防止のソーシャルアクションを行うための掲示物・ポスターを作成するために講義を行い，模造紙に児童虐待についてなどをまとめ，そのまとめた掲示物を毎年11月に北海道北広島市で開催している児童虐待防止講演会に展示及び講演会への参加を計画した。しかし，その後，新型コロナウイルス感染症予防のために講演会が急遽開催されなくなり，当初の予定を変更することとし，11月18日～20日まで，北海道北広島駅（１日乗降客１万5210人）の北広島エルフィンパークに掲示物を掲示するイベントを開催することとした。

また上記イベント以外の期間は学内に掲示し，オープンキャンパスの際に訪れた高校生や，活動を行った２年生以外の学びのために常時掲載することとした。

Ⅲ．「夏季集中期間での授業」について

大まかなスケジュールは下記の表を参照。以下４つの学びを形成した。

【表】スケジュール

開　催　日	講　時	時　　間	コ　マ	内　　容
8月24日(月)	1	9：00～10：30	1	・オリエンテーションと事前アンケート調査 ・オレンジリボン運動とは
	2	10：40～12：10	2	・児童虐待について
	3～4	12：55～16：05	3～4	・面接技術のVTR学習とOSCEのポイント
8月25日(火)	1～2	9：00～12：10	5～6	・オレンジリボン作成
	3～4	12：55～16：05	7～8	・掲示物作成（模造紙）
8月26日(水)	1～4	9：00～16：05	9～12	・掲示物作成（模造紙・ポスター）　・発表準備 ・掲示物について発表と総括　・掲示物を学内に掲示

※13コマ～15コマ目は事後アンケートと，11月18日～20日までの北広島エルフィンパークでの掲示イベント。

⑴　オレンジリボン運動についての講義

講義内容については，a．オレンジリボン運動について，b．オレンジリボン憲章について，c．オレンジリボンの自治体・企業活動について，d．学生がオレンジリボン活動をおこなう意義の４項目について実施することとした。

⑵　児童虐待についての講義

講義内容については，a．児童虐待とは，b．児童虐待の現状，c．児童虐待の類型，d．被虐待児の臨床像についての４項目について実施することとした。

⑶　学生の手作りオレンジリボンの作成

児童虐待ネットワークのホームページに掲載されている「自分で作れる手作りリボン」の情報を参考にしながら，マスコットを付したオリジナルリボンの作成をすることとした。

⑷　児童虐待についてグループ学習

40名の学生を概ね４つのグループに分け，a．児童虐待とは，b．被虐待児童の臨床像について，c．児童虐待の類型について，d．オレンジリボン憲章について，各グループに１テーマを振り分け，模造紙にまとめ，その後，児童虐待防止のポスターも作成，授業内で発表会を行うこととした。

【写真１】学生の手作りオレンジリボンの作成

Ⅳ．11月18日～20日までの北広島エルフィンパークでの掲示イベント

令和２年11月18日～20日に北広島市駅に併設する北広島エルフィンパークにて掲示物の展示を行った。

Ⅵ．オレンジリボン実施後の学生へのアンケート

この児童虐待防止活動の一つであるオレンジリボン活動を実施するにあたり授業開始前と，授業終了後にアンケートを実施した。

アンケートの項目については，Q１「オレンジリボン運動を授業前から知っていたか」，Q２.「Q１で知っていたという学生はなぜ知っていたのか」，Q３.「児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか」の３項目とし，活動終了後，再度，Q３について質問し，授業・活動終了前と活動後の変化について明らかにし，本学で活動した実践内容がどのような効果を及ぼしたのか

【写真２】各グループ，作成した模造紙・ポスターを発表

【写真 3】【写真 4】北広島エルフィンパークでの掲示イベント

を考察した。授業及びアンケート対象者数は 40 名である。

【事前アンケート】

Q 1. オレンジリボン運動を授業前から知っていたか。

項　目	総数	%
知っていた	37 名	92.5%
初めて知った	3 名	7.5%
合計	40 名	100%

「知っていた」37 名（92.5%），「初めて知ったが」3 名（7.5%）であった。

「知っていた」と答えた学生については，Q2 の質問を答えてもらった。

Q 2. Q 1 で「知っていた」という学生はなぜ知っていたのか。

当てはまるものに 1 つ答えなさい。

項　　目	総数	%
①先輩が学内で取り組んでいたので知っていた	30 名	81.1%
②授業（児童系）の中で学び知っていた	6 名	16.2%
③その他	1 名	2.7%
合計	37 名	100%

「先輩が学内で取り組んでいたので知っていた」が 30 名（81.1%），「授業（児童系）の中で学び知っていた」が 6 名（16.2%），その他は 1 名（2.7%）で，その他の意見では「オープンキャンパスで知った」であった。

学内で継続して活動していることが，早期の周知につながっていることが理解できた。

Q 3. 児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか。

下記項目を重要なものから，それほど重要でないものまで順番をつけなさい。

（　）→（　）→（　）→（　）→（　）→（　）

順　位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	
①親の子育て強化	5	18	7	5	4	1	40
②社会で支える・発見する取り組み強化	20	9	4	6	1	0	40
③行政の子ども・親などの検診などの強化	2	4	6	8	20	0	40
④児童相談所の機能強化	4	5	19	4	7	1	40
⑤社会へのソーシャルアクション	9	4	4	17	6	0	40
⑥その他	0	0	0	0	2	38	40
	40	40	40	40	40	40	

【事後アンケート】

児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか。

順　位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	
①親の子育て強化	7	8	14	3	5	3	40
②社会で支える・発見する取り組み強化	10	13	5	6	4	2	40
③行政の子ども・親などの検診などの強化	2	3	4	5	20	6	40
④児童相談所の機能強化	0	0	7	22	6	5	40
⑤社会へのソーシャルアクション	20	13	4	3	0	0	40
⑥その他	1	3	6	1	5	24	40
	40	40	40	40	40	40	

Ⅶ. オレンジリボン活動の実施前と実施後の変化

事前アンケートで，「児童虐待を防止するには，どのような活動が必要だと思うか」という質問に対して，優先順位の高い順から「社会で支える・発見取り組み強化」⇒「親の子育て強化」⇒「児童相談所の機能強化」⇒「社会へのソーシャルアクション」⇒「行政の子ども・親などの検診などの強化」⇒「その他」の順であった。

【写真 5】児童虐待防止の学びをした後の記念撮影（８月 26 日）

授業および掲示イベント後の，全ての授業が終了した後，事後アンケートでも上記同様の質問を実施したが，優先順位の高い順から「社会へのソーシャルアクション」⇒「社会で支える・発見する取り組み強化」⇒「親の子育て強化」⇒「児童相談所の機能強化」⇒「行政の子ども・親などの検診などの強化」⇒「その他」の順となった。

事前アンケートでは，「社会で支える・発見する取り組み強化」の必要性は認識していたものの，社会を強化するための「社会へのソーシャルアクション」の認識が薄く，関係性もリンクしていなかったことがうかがい知ることができた。

その後，児童虐待防止のための掲示物やポスターの作成，また北広島駅でのソーシャルアクションを実施したことで，ソーシャルアクションのスキルも身に付き，また，社会で支える・発見をする取り組みを強化をするためには，ソーシャルアクションが重要だということが理解したことがうかがい知ることができた。

Ⅷ．おわりに

星槎道都大学における「学生によるオレンジリボン運動」には学生 40 名と学部教員 13 名が８月から 11 月まで関わった活動であった。

この度の活動が学生，また地域の方々の心に響き，児童虐待がなくなることを願い，そして，この研究がより深めていけることを祈り，末尾の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

参考文献

特定非営利活動法人児童虐待防止全国ネットワーク
（http://www.orangeribbon.jp/　2020.11.20）

A case study for the establishment of a system to prevent, discover, and reveal

―from the implementation of children abuse prevention activities (Second Report)

UEHARA Masaki　IIHAMA Hiroyuki　KOBAYAKAWA Toshiya　NISHIZAKI Takeshi
FUJINE Osamu　YOSHIE Sachiko　SUGIMOTO Daisuke　SAKURAI Mihoko
OOSHIMA Yasuo　YOSHIZAWA Eri　YUASA Yorika　NISHINO Katsutoshi
HATAKEYAMA Akiko

Abstract

Thirteen faculty members were involved in the implementation of the Student's Orange Ribbon Program, one of the child abuse prevention projects, for second-year students in the Faculty of Social Welfare.

We gave a lecture on child abuse prevention and executed social actions to reach out to society by creating notices.

Through the surveys we had conducted before the lecture and after all the programs, we found out that the recognition of "social action toward society" had changed-it was seen as effective in preventing child abuse.

This project has proven that the skills required of social workers have improved and perceptions have changed.